

「子供たちの未来づくり」⑩

学校と企業との間にある溝



これまで、学校の先生方は、社会のことにあまり関心を持つことはなかったのではないだろうか。一方、産業界の経営者の多くは、私自身も含めて、学校に多くを期待してこなかったかもしれない。新人として会社に入社してから鍛えていけば成長させられると考えてきたし、これまでそれでうまくいってきたのだと思う。だから、学校へ行つて子供たちに話をする必要があるということなど考えたこともなかった。

つまり、学校教育と企業内の人材育成とが切れていたのではないだろうか。ところが、子供たちは学校から社会へと一貫して生きていく。学校と社会との間には、様々なギャップがある。子供たちの多くは、そのギャップに耐えられなくて、やり甲斐のある仕事が見つけれず、思うような就職ができなかったり、折角就職しても、自分の思っていたことと違ふと言つてすぐに辞めるという事態が生じてしまっているのではないだろうか。

先生方が社会に関心を持たず、我々産業界が学校に関わろうとしてこなかったことが結局、子供たちに大きな犠牲を強いてしまっている、と気が付いた時、私は言いようのないような心の痛みとショックを受けた。

このままではいけない。何とかしてこの溝を少しでも埋め合わせすることはできないだろうか。そのためには、学校と産業界がそれ



それを責め合うのではなく、お互いに歩み寄らなければならぬ。学校の先生方は、もともとつと社会のことに関心を持ち、社会に出て行つて欲しい。産業界の方々も、次世代を担う子供たちが学ぶ学校へ出向き、直接子供たちに生の社会のことを語り伝えて欲しい。何も難しい話をする必要はない。社会で「働く喜びと苦労」をそのままに語っていただければよい。親と先生以外の大人が、本気で語る物語を聞いて、子供たちはきつと自分の将来の姿を想像し思い描くことができるようになるに違いない。そのことが、子供たちに学校と社会との間のギャップを乗り越える力を与えてくれるに違いない、と心から信じている。

文/日向市キャリア教育支援センター長

水永 正憲